

問14 正規雇用看護職員の離職率

(単位: %)

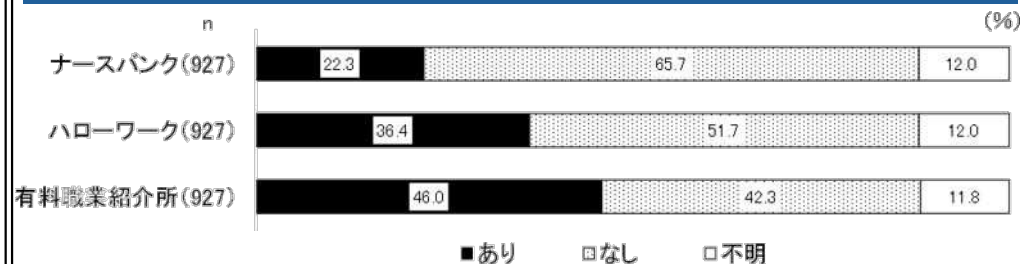
令和5年度	正規雇用 看護職員離職率	新卒 看護職員離職率	経験者 看護職員離職率
全体	15.1	9.9	23.3
施設種別			
病院全体	14.7	9.9	19.8
200床未満	19.9	15.1	27.3
200～500床未満	14.2	10.4	14.8
500床以上	13.3	8.8	13.6
有床診療所	9.8	0.0	45.0
無床診療所	15.6	0.0	38.2
助産所	0.0	0.0	0.0
訪問看護ステーション	26.3	17.6	27.0
その他の施設	27.8	0.0	52.3

問15 正規雇用看護職員の退職者の主たる理由

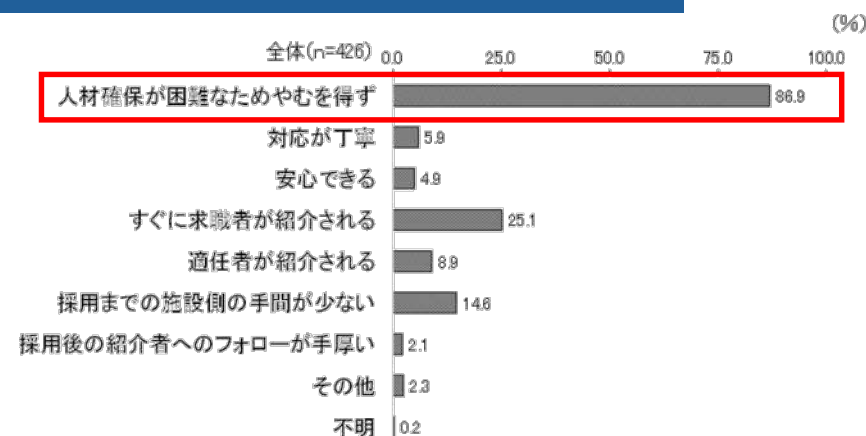
令和5年度	退職者総数	5402	100.0%
退職理由	①定年退職	149	2.8%
	②出産・育児・介護等家庭の事情	641	11.9%
	③転居に伴う通勤困難による	520	9.6%
	④本人の体調不良・傷病等による	707	13.1%
	⑤職場の原因(労働条件・労働環境・人間関係等の理由)	531	9.8%
	⑥進学	107	2.0%
	⑦他施設への転職	1297	24.0%
	⑧看護職以外への転職	178	3.3%
	⑨施設側の働きかけによる(解雇、希望退職の募集、退職勧奨)	49	0.9%
	⑩経済的に働く必要がなくなったことによる	10	0.2%
	⑪新型コロナウイルス感染症による労働環境の変化や感染リスク	8	0.1%
	⑫その他	349	6.5%
	⑬不明	856	15.8%
	小計	5253	97.2%

「他施設への転職」が1,297人で最も多く、次いで、「本人の体調不良・傷病等による」707人、「出産・育児・介護等家庭の事情」641人と続く。
(「不明」除く。)

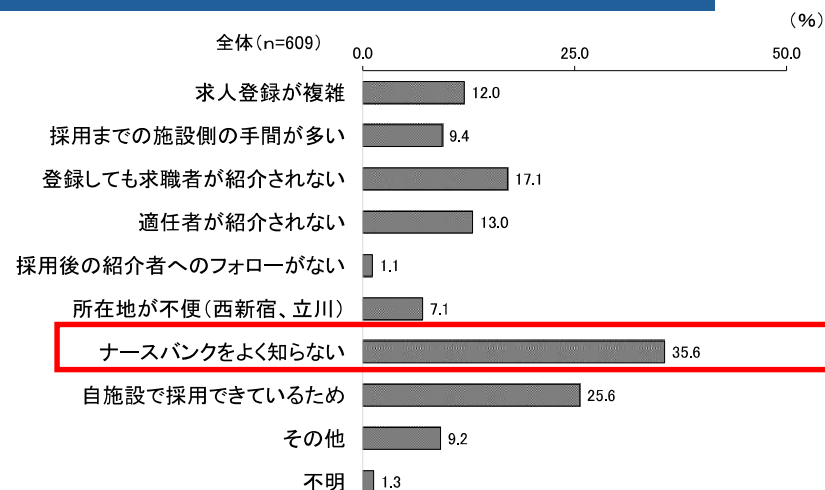
問19 無料職業紹介(ナースバンク)等の利用状況



問19-1 有料職業紹介を利用する理由

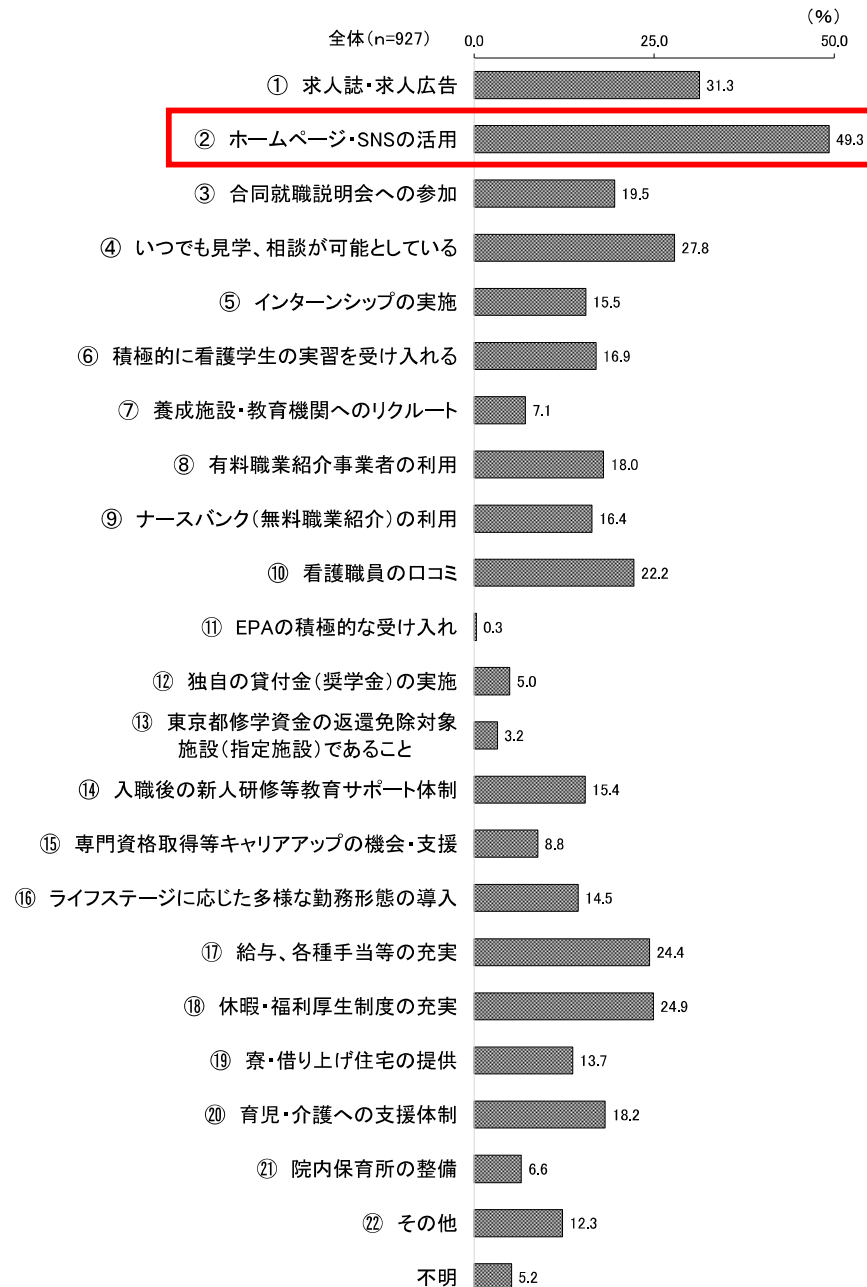


問19-3 ナースバンクを利用しない理由



令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（管理者編②）

問18 新卒者の採用・確保において効果をあげている取組

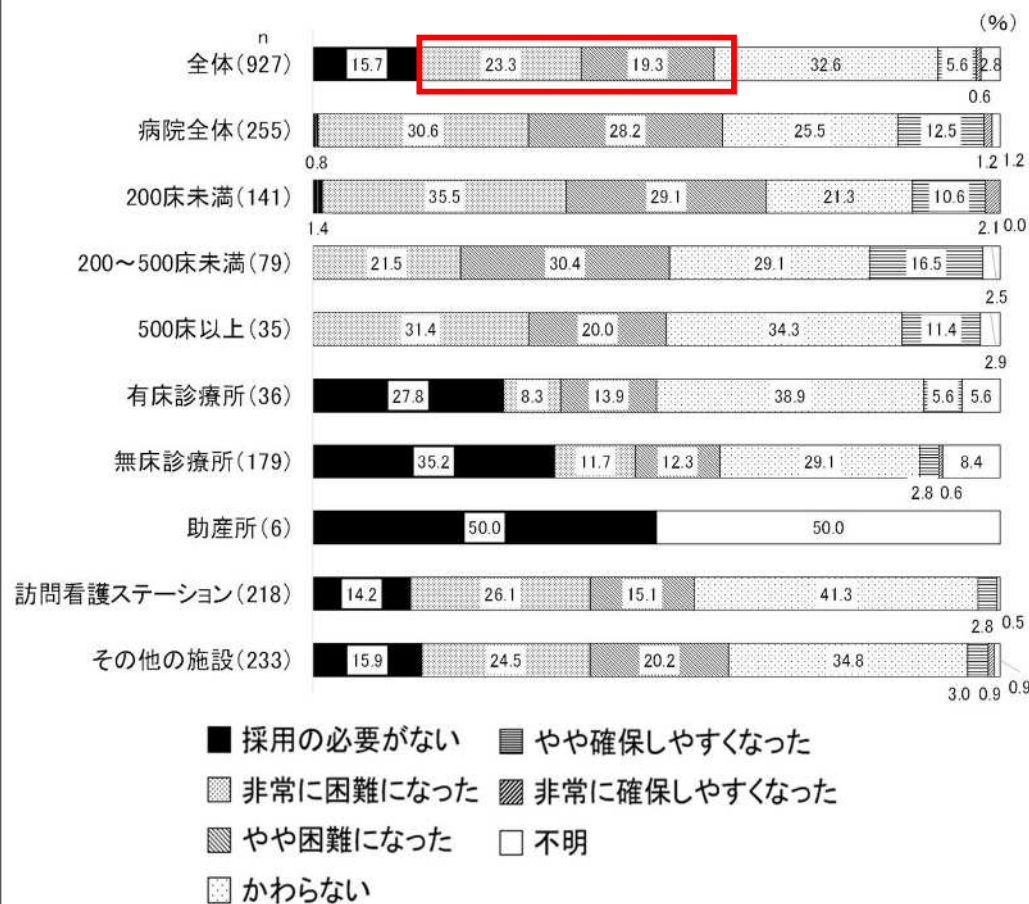


問26 看護職員の定着のために実施している取組



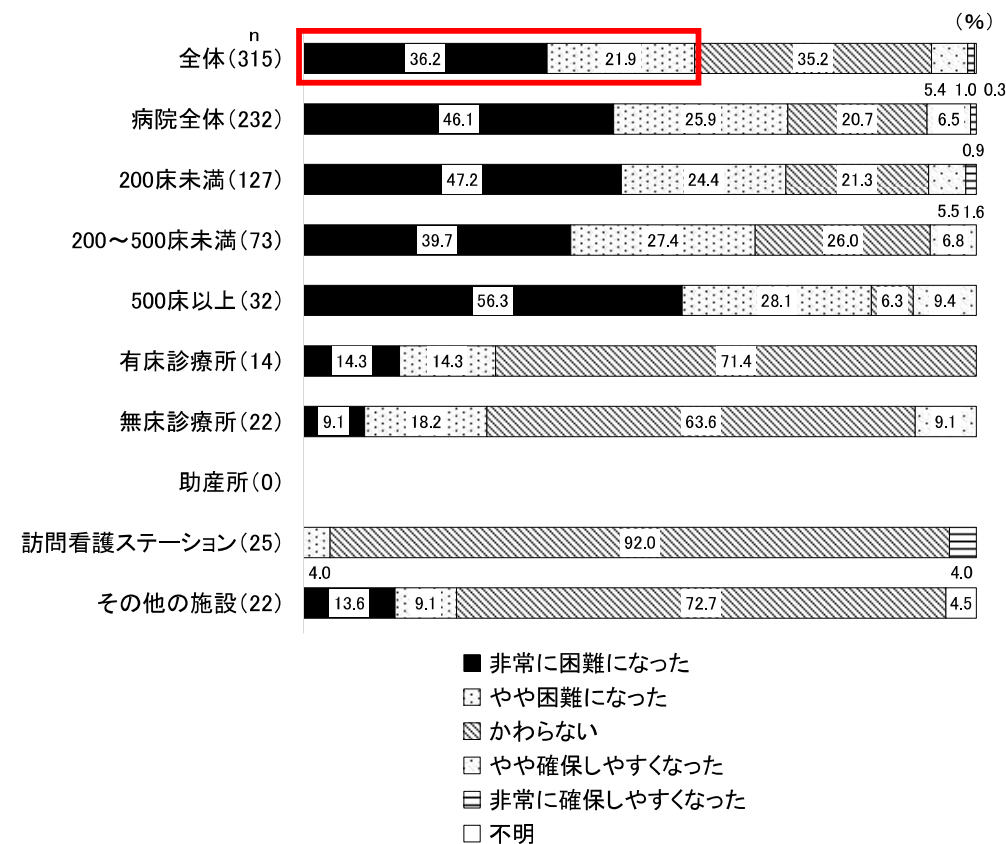
令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（管理者編③）

問21 1年前との看護職員の確保状況の比較



全体でみると、「非常に困難になった・やや困難になった」が約4割を占め、「かわらない」が約3割であり、「やや確保しやすくなった・非常に確保しやすくなった」は1割未満であった。

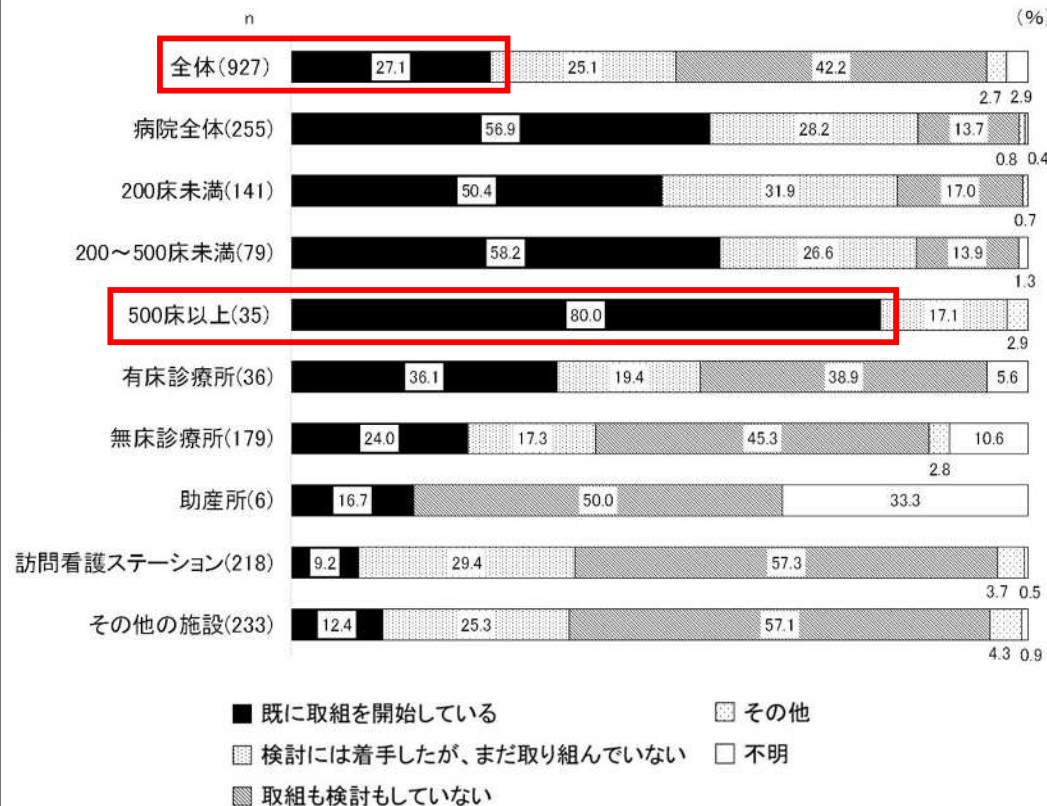
問50 1年前との看護補助者の確保状況の比較



全体でみると、「非常に困難になった・やや困難になった」が6割弱を占め、「かわらない」が35.2%、「やや確保しやすくなった・非常に確保しやすくなった」は1割未満であった。

令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（管理者編④）

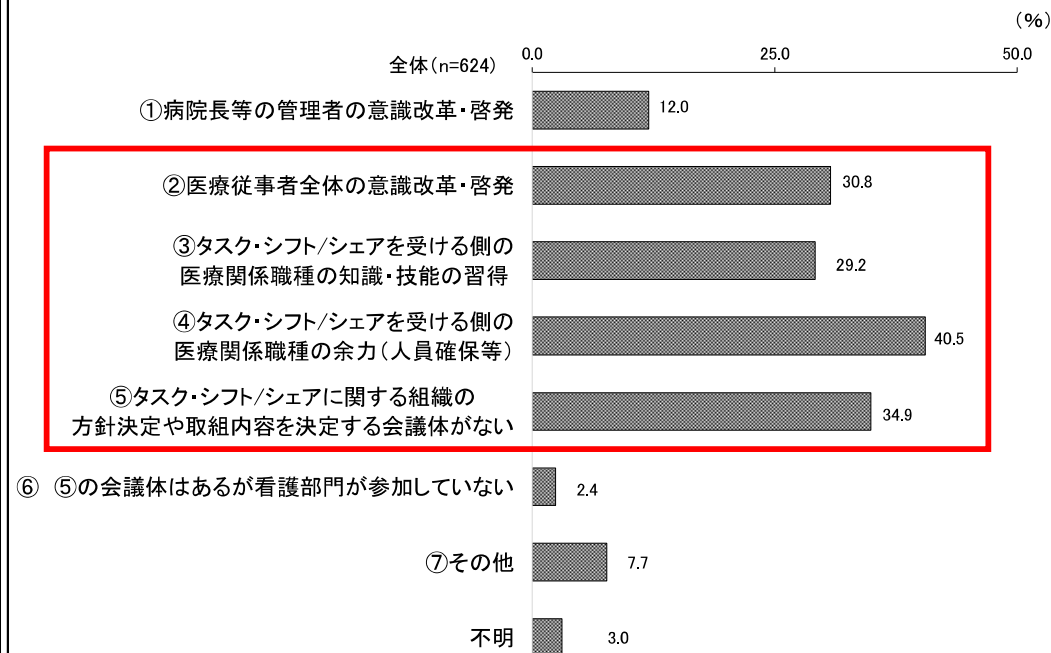
問28 タスク・シフト/シェアの取組状況



全体でみると、「既に取組を開始している」との回答が3割弱となっている。特に、「病院（500床以上）」で「既に取組を開始している」が80.0%となっている。

問28-3 タスク・シフト/シェア推進に伴う課題

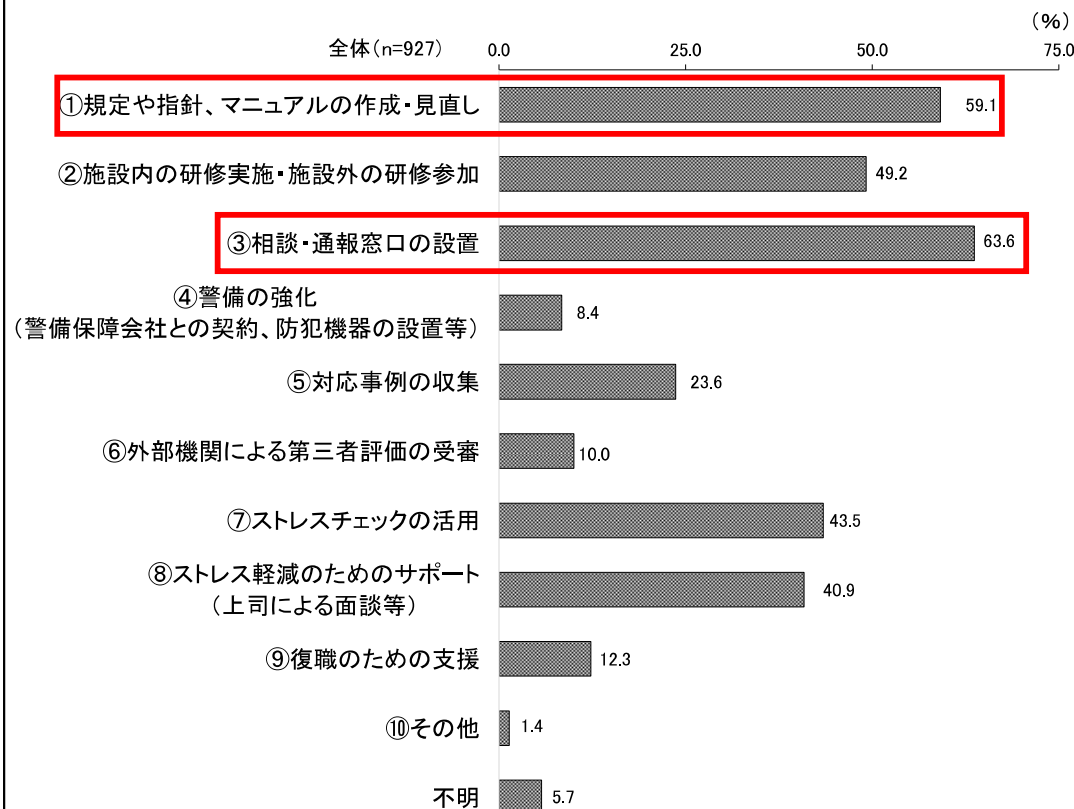
⇒ 問28で「取組を開始していない」を選択した場合に回答



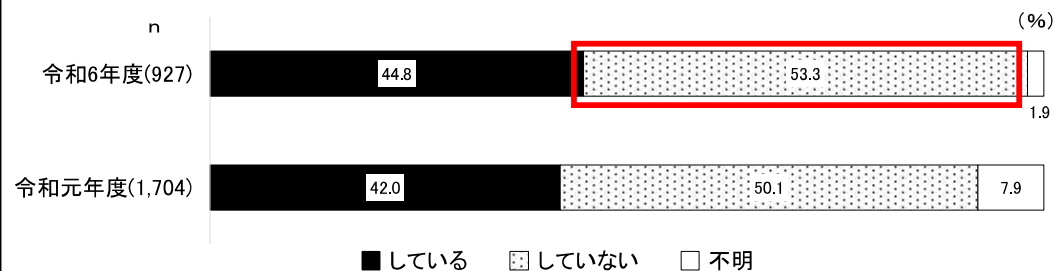
「タスク・シフト/シェアを受ける側の人材」に関する回答の割合が高い傾向にあった。

令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（管理者編⑤）

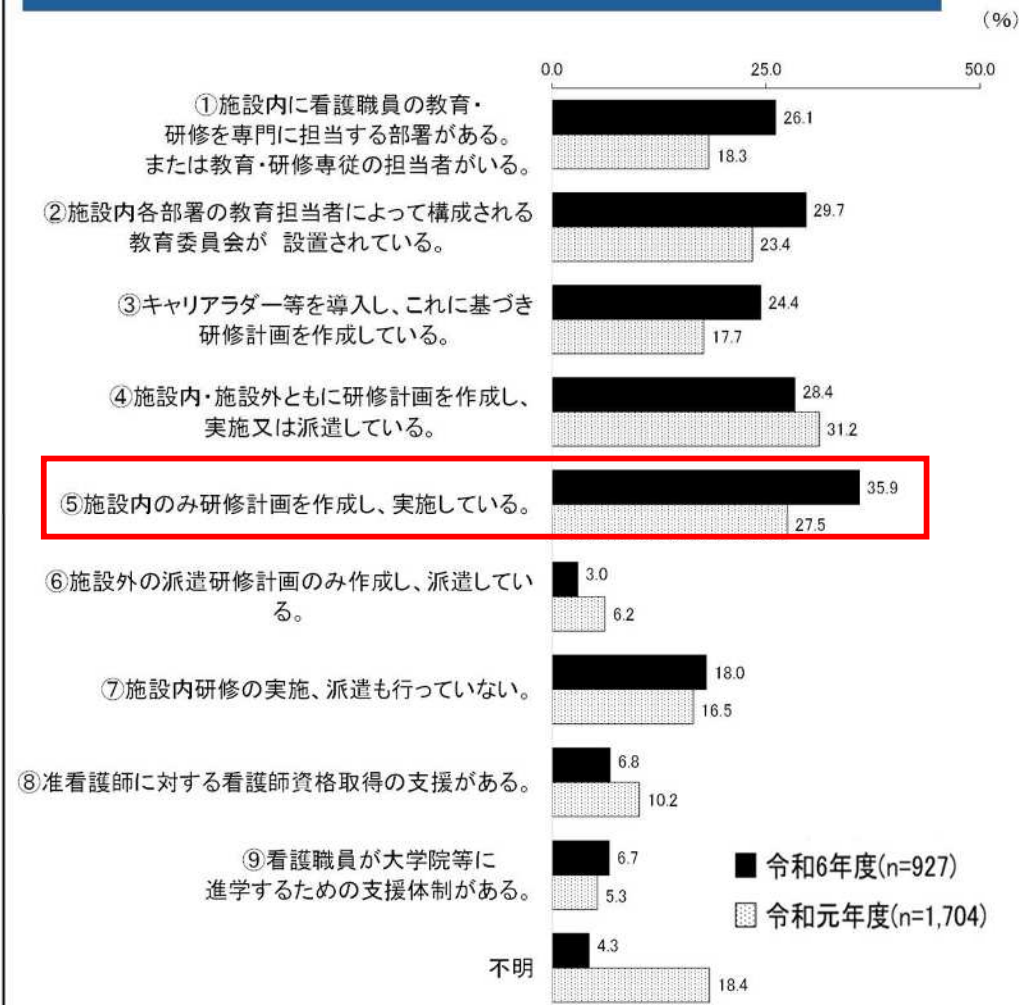
問29(3) 施設職員間のハラスメント対策として実施している取組



問41 東京都ナースプラザ（ナースセンター）への届出の周知状況

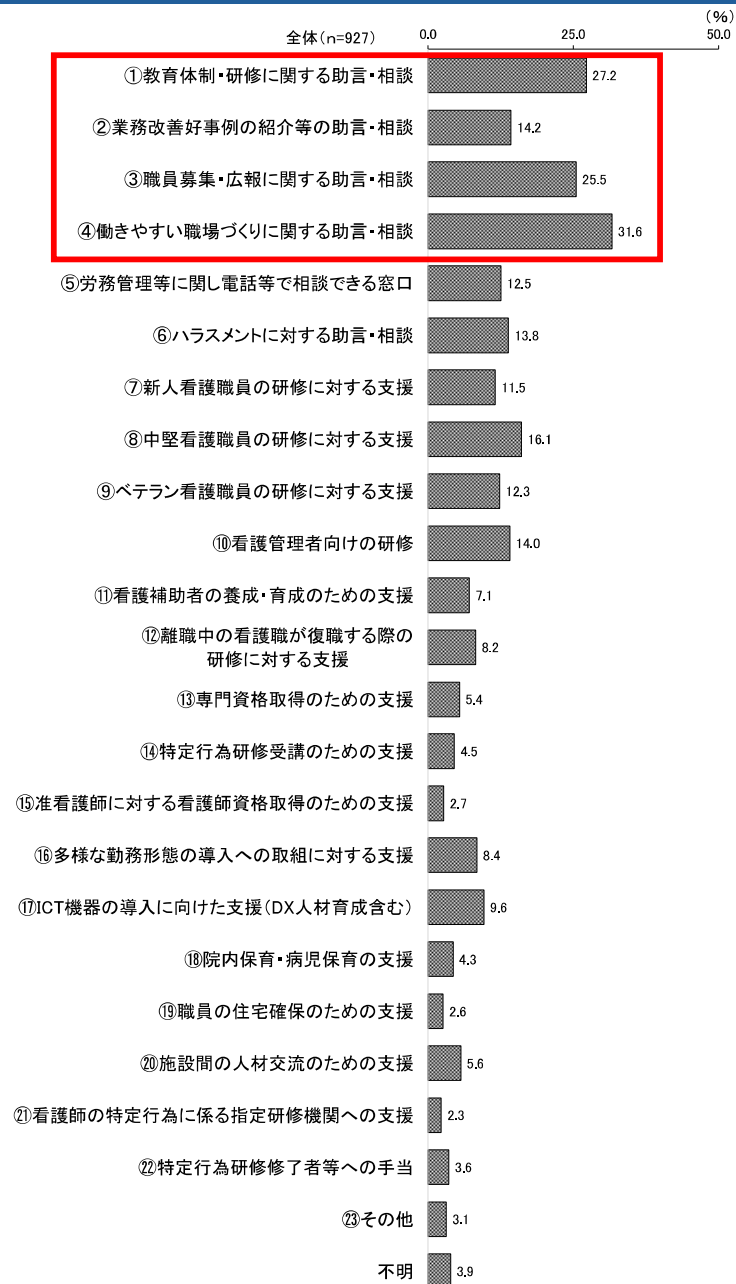


問32 研修・教育体制、進学の支援体制

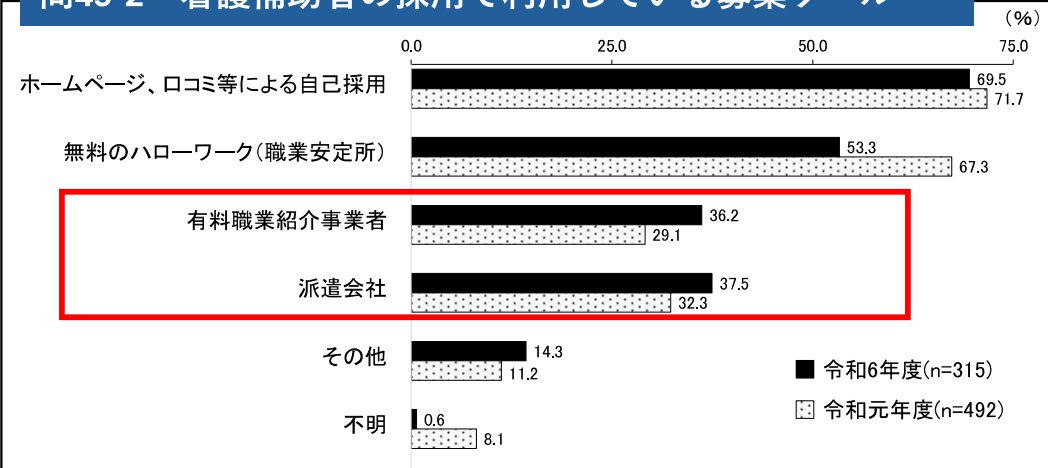


令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（管理者編⑥）

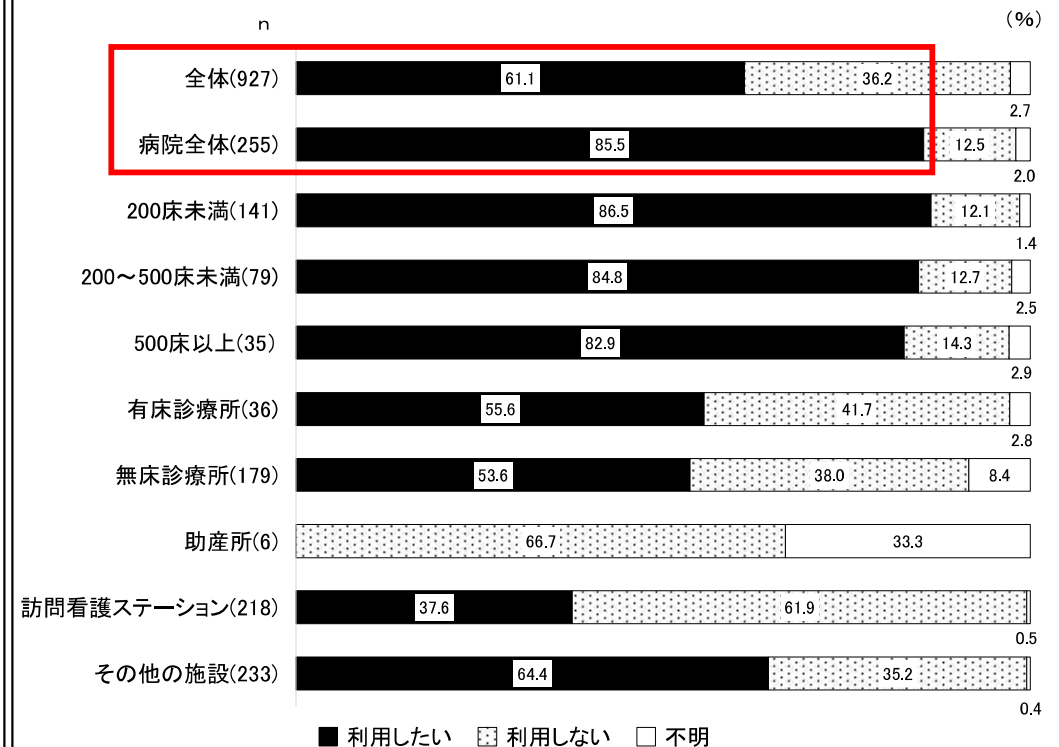
問44 看護職員の確保・育成・定着に向けて期待する支援



問49-2 看護補助者の採用で利用している募集ツール

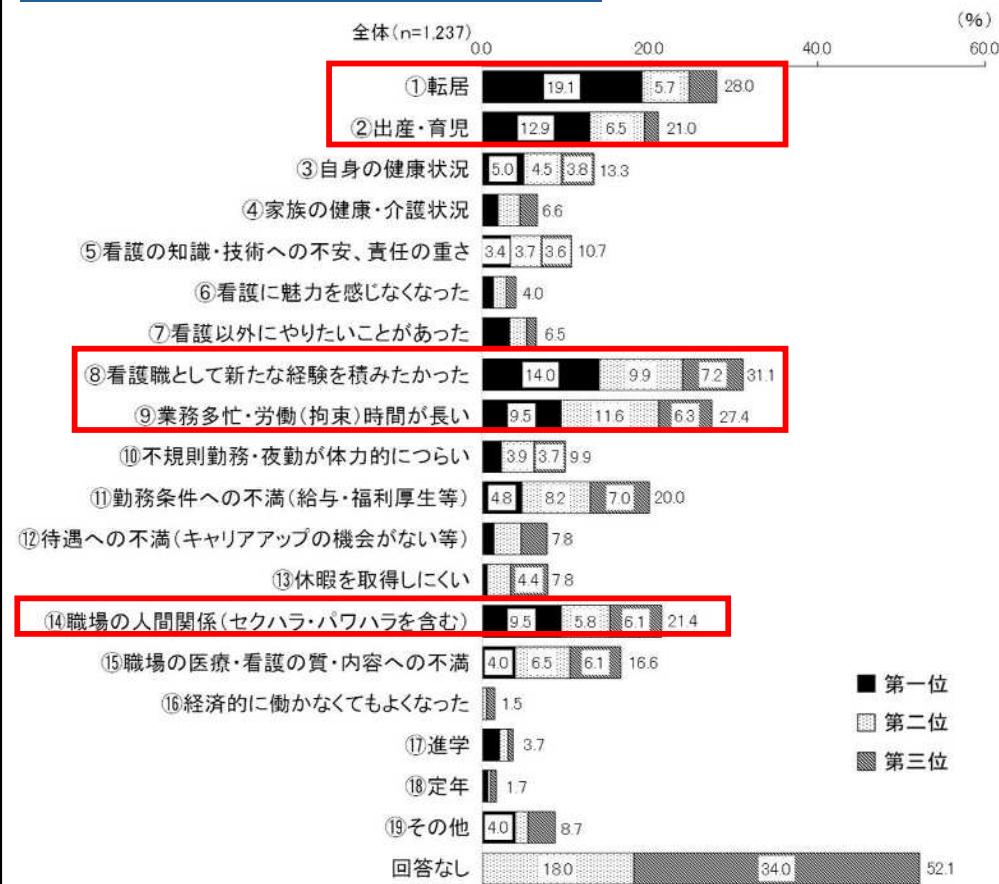


問20 看護補助者の無料職業紹介の利用希望



令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護職員編①）

問13-3 前職場の退職理由

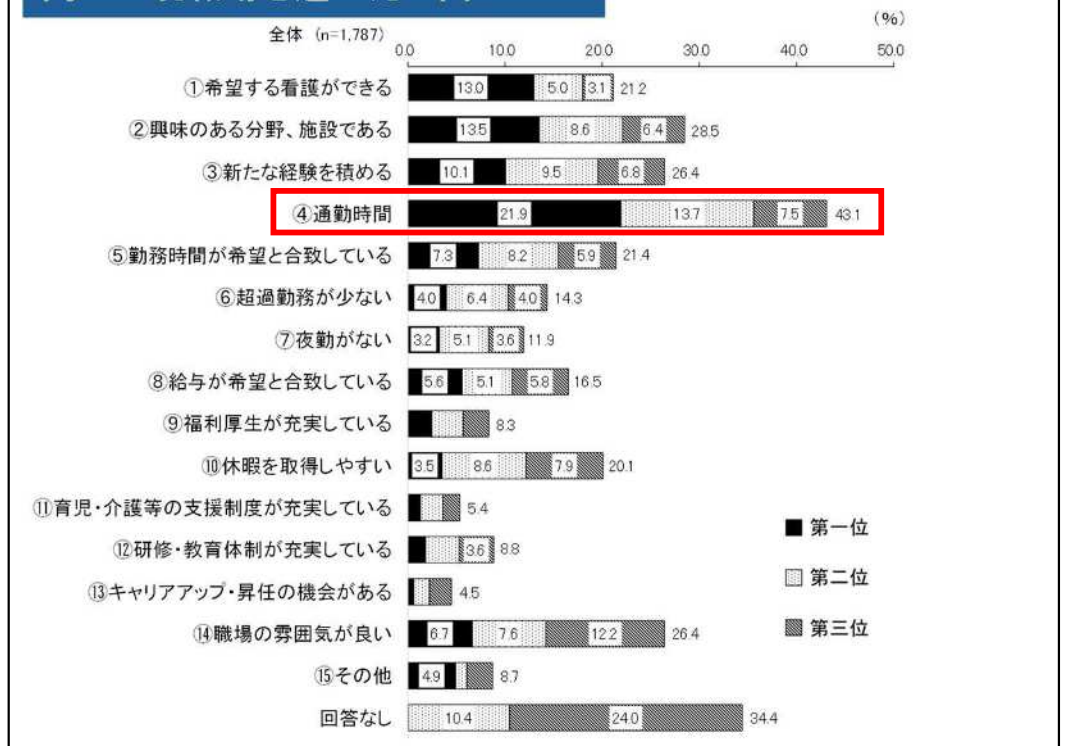


問13-4 職場の人間関係（退職理由）

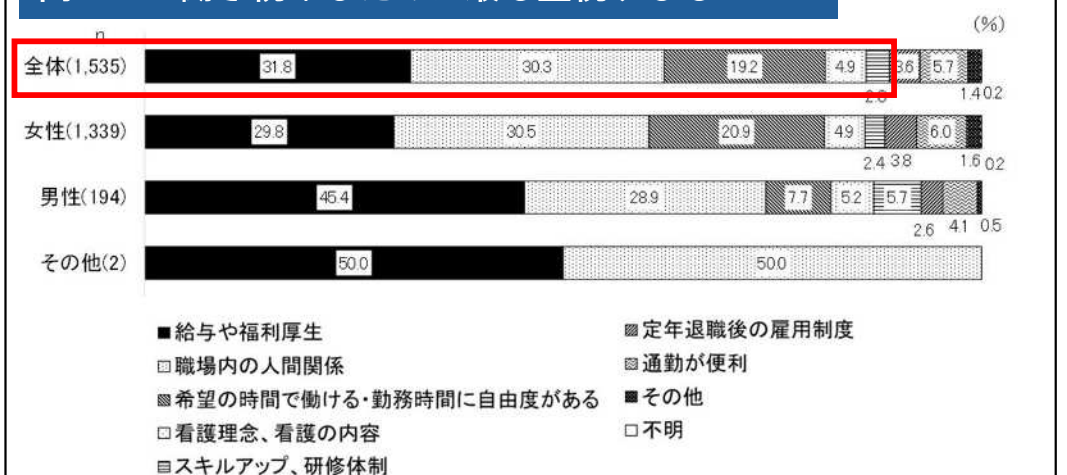
退職歴があると回答した1,237人のうち、
退職理由を「職場の人間関係」と回答した265人の内訳



問14 現職場を選んだ理由



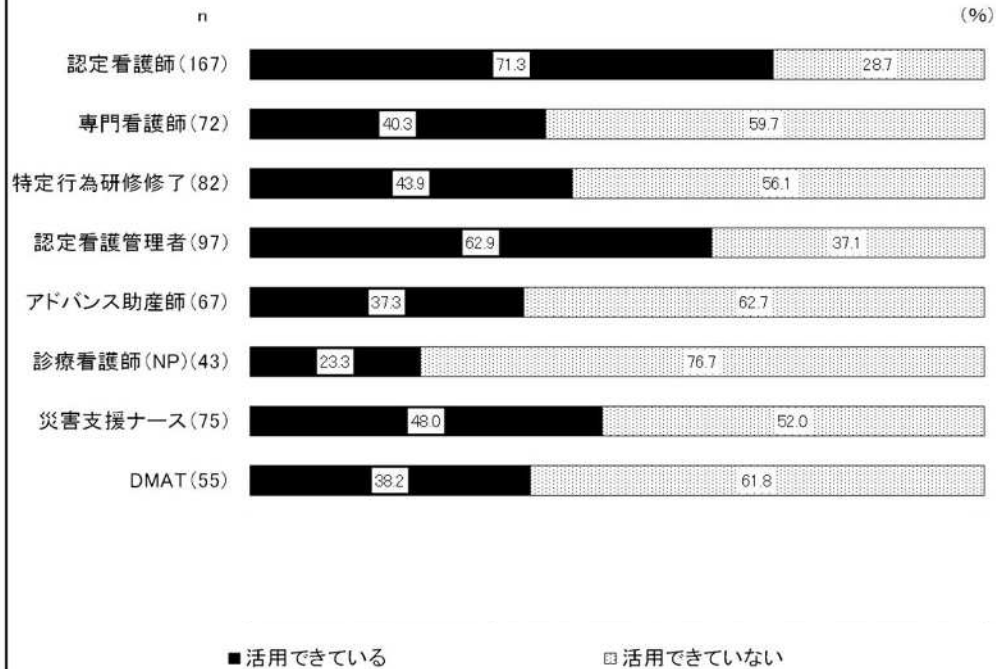
問18-4 働き続けるために最も重視するもの



全体でみると、「給与や福利厚生」31.8%、「職場内の人間関係」30.3%、「希望の時間で働ける・勤務時間に自由度がある」19.2%の回答が多かった。

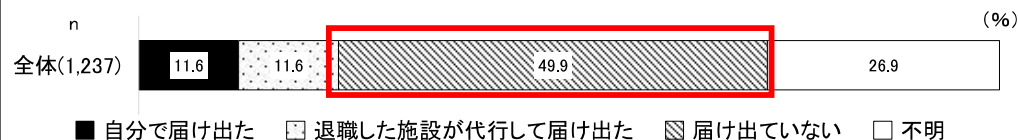
令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護職員編②）

問19 保有している専門資格の活用状況

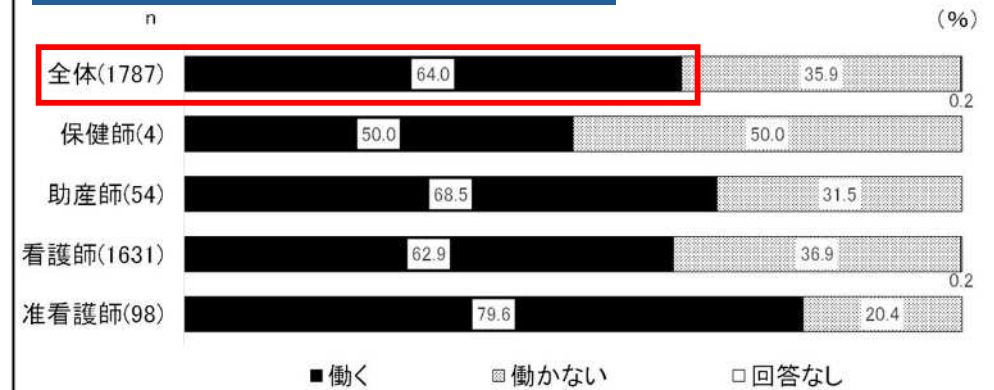


「認定看護師」71.3%、「認定看護管理者」62.9%の回答が多く、この2つのみ5割を超えていた。
一方、その他の専門資格では半数以上が「活用できていない」と回答があった。

問22 離職時におけるナースセンターへの届出（看護師等免許保持者の届出制度）



問20 定年退職後の働き方



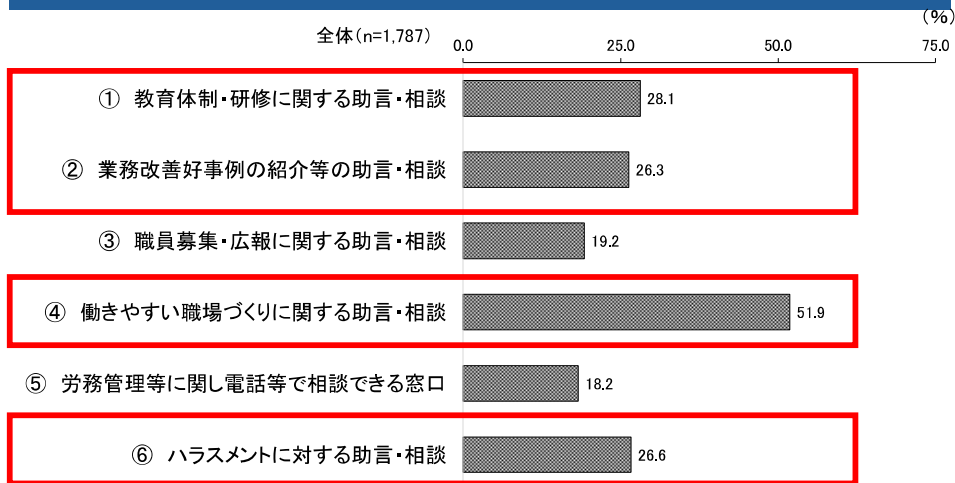
全体でみると、64.0%が定年退職後も「働く」との回答があった。
前回調査では、「働く」が67.2%であり、大きな変化は見られなかった。

問20-1 定年退職後に働きたい施設

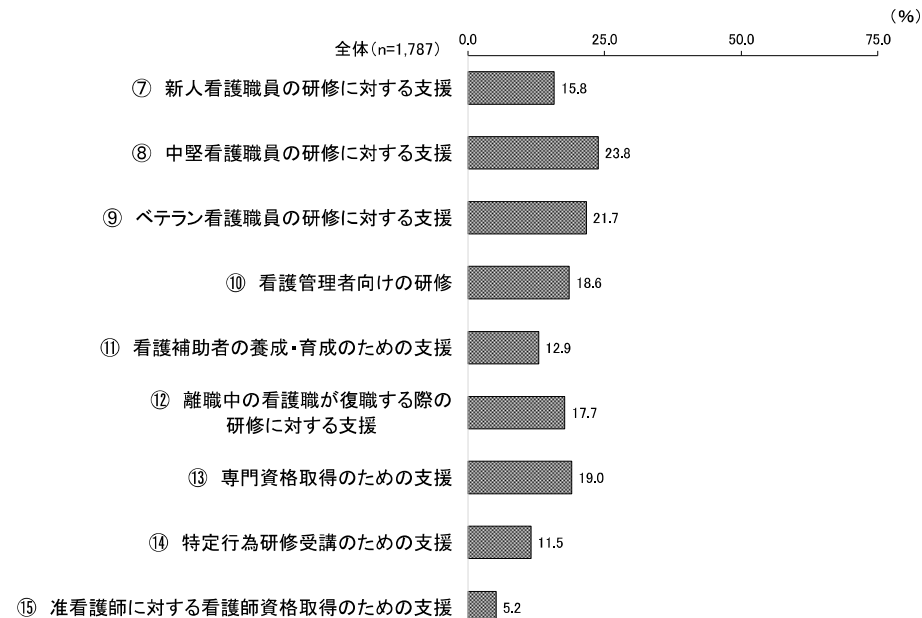


令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護職員編③）

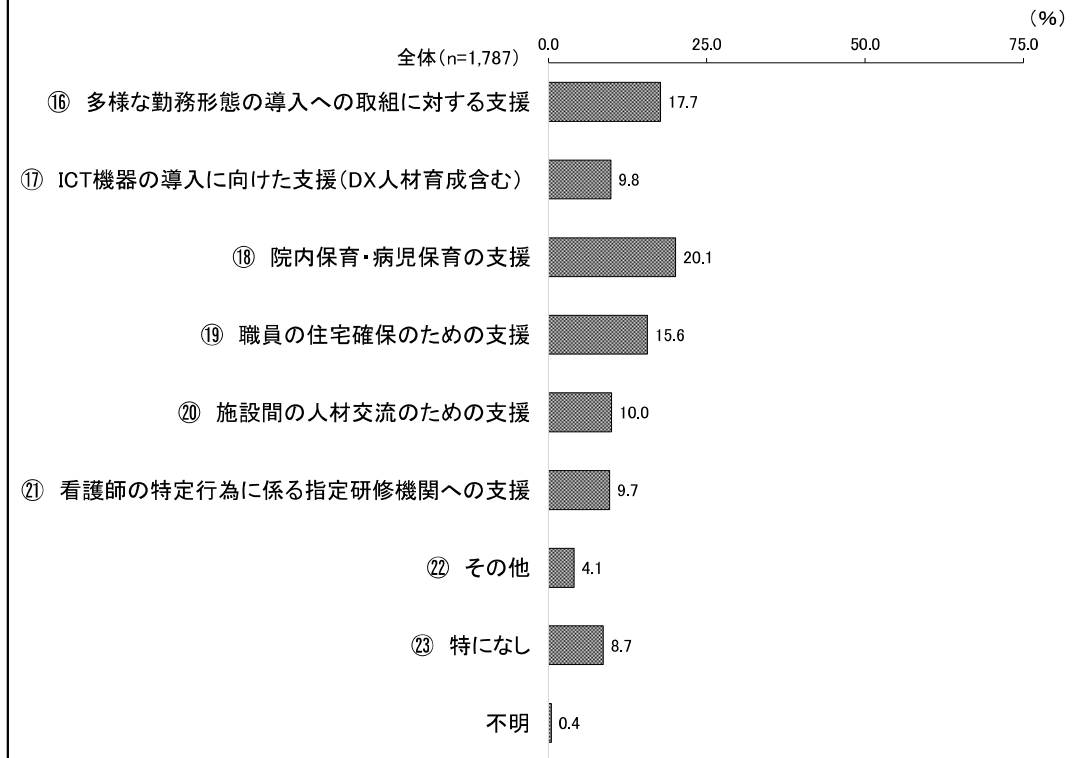
問23 看護職として働き続けるために期待する都の支援（助言・相談等）



問23 看護職として働き続けるために期待する都の支援（研修・資格取得支援等）

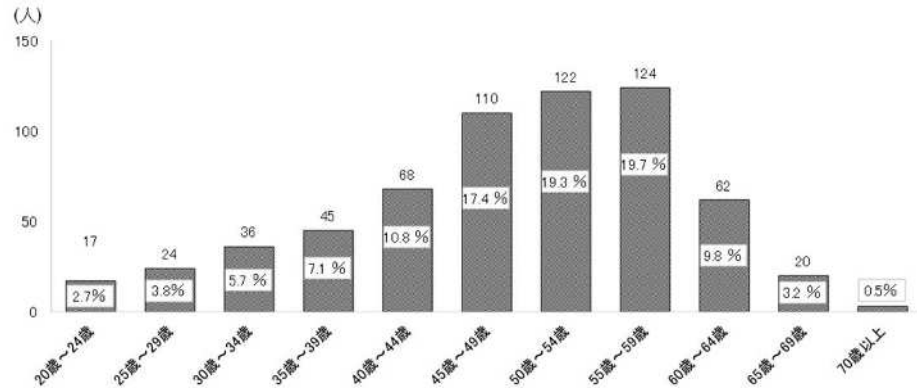


問23 看護職として働き続けるために期待する都の支援（その他）

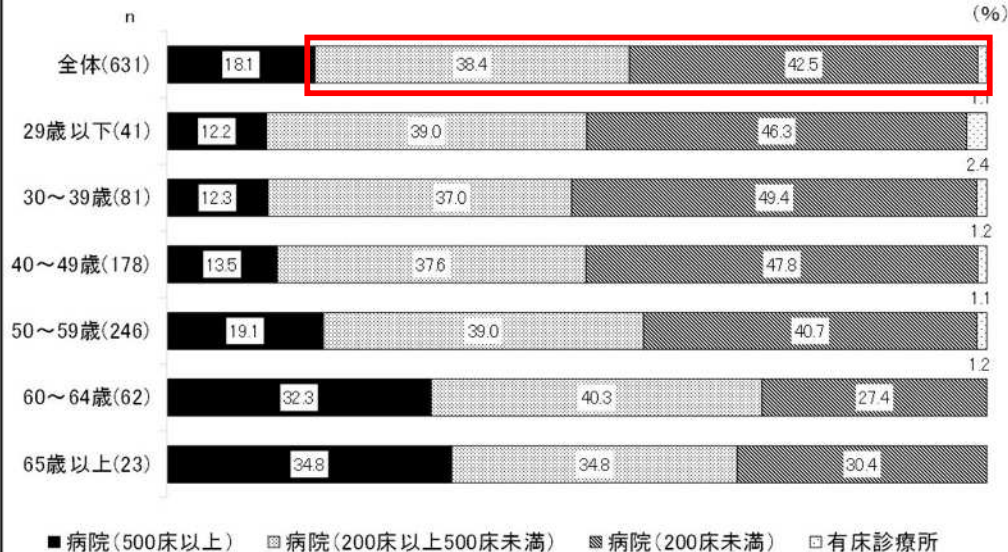


令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護補助者編①）

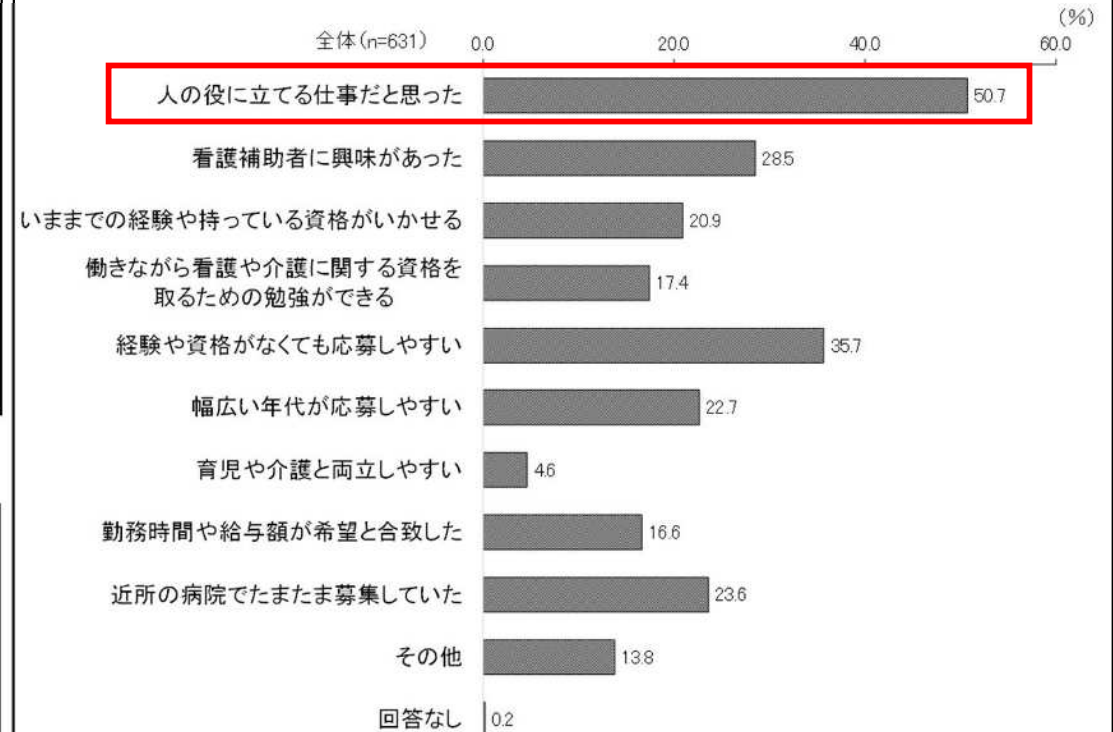
問2 年齢



問5 現在の職場の病床規模



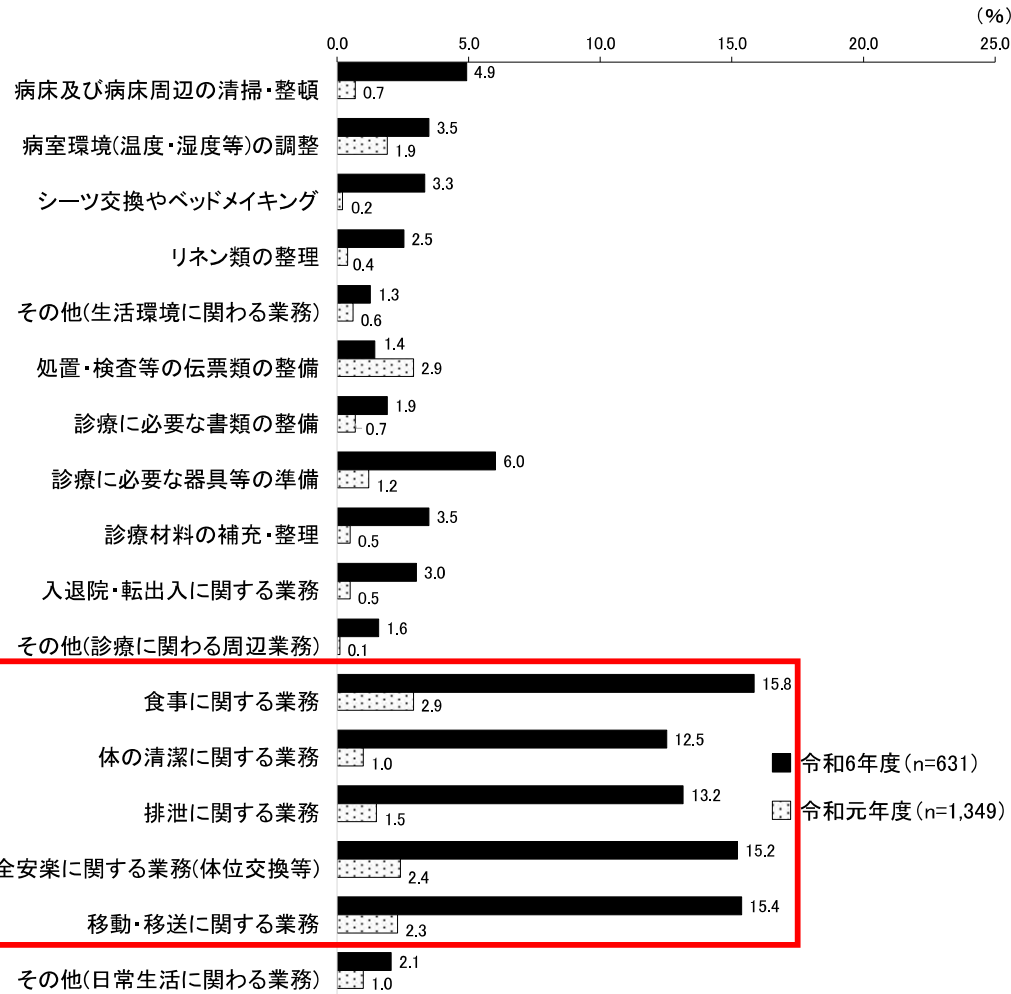
問14 看護補助者を選んだ理由



「人の役に立てる仕事だと思った」50.7%が最も多く、次いで、「経験や資格がなくても応募しやすい」35.7%、「看護補助者に興味があった」28.5%と続く。「その他」には、「家族や知人等の紹介」、「給与・福利厚生・勤務条件」などの回答があった。

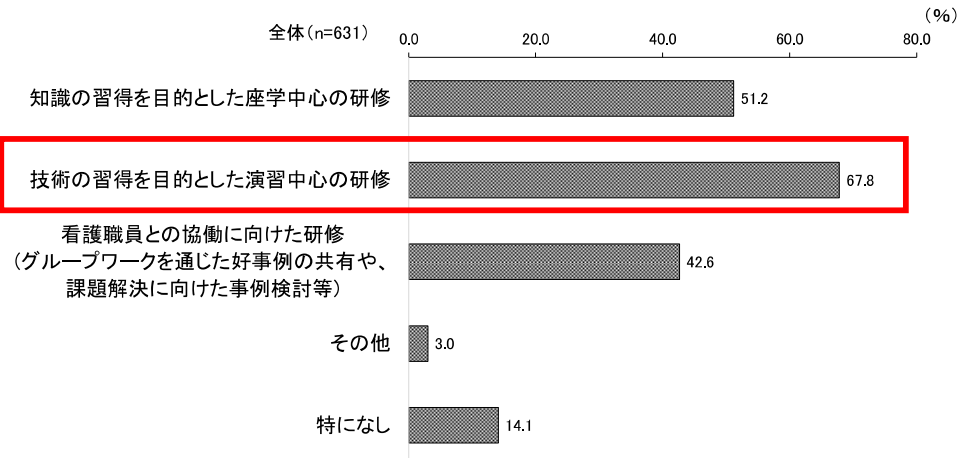
令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護補助者編②）

問8② 技術的に難しいと感じる業務

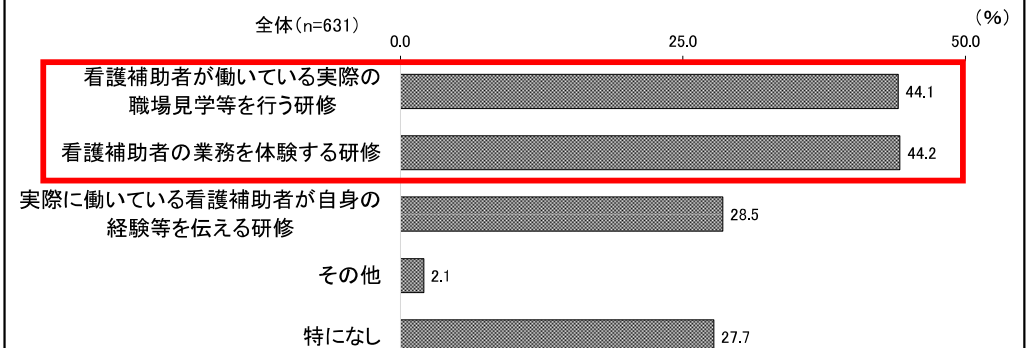


前回調査と比較して、複数の業務で、「技術的に難しい」と感じる割合が高まっている。

問9 看護補助者として安心して働くために必要な研修

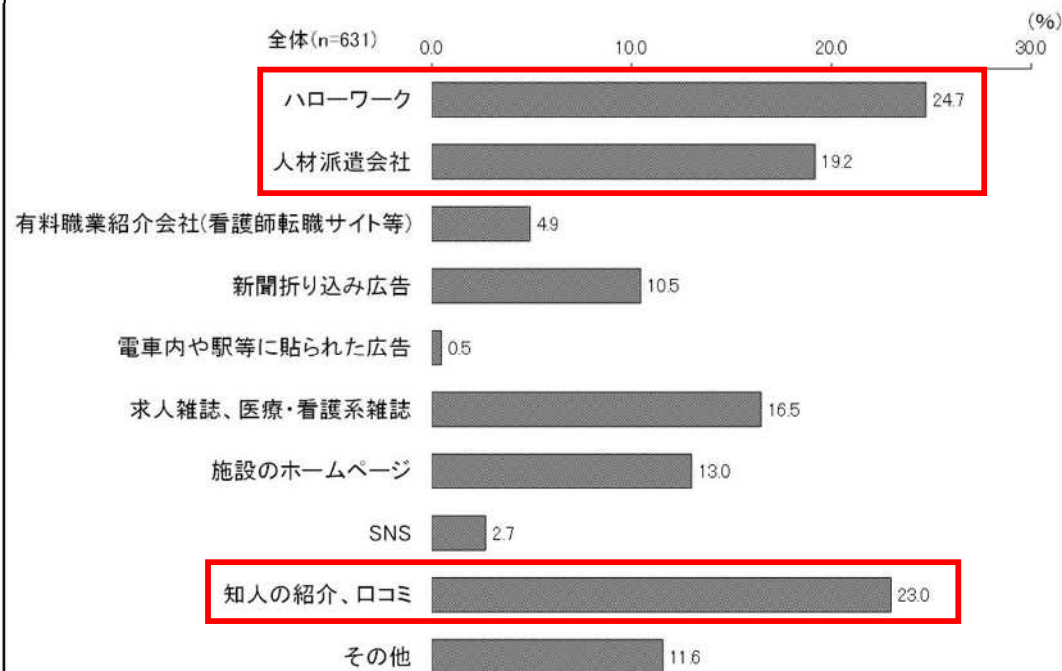


問10 看護補助者として働く前に受講したかった研修



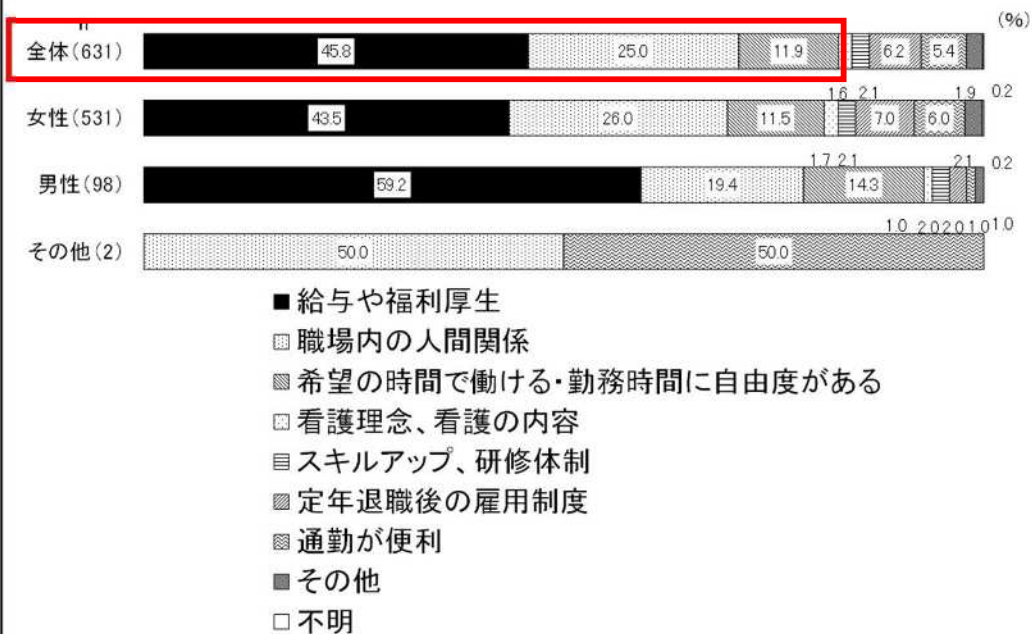
令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護補助者編③）

問15 求人情報の取得先



「ハローワーク」24.7%が最も多く、次いで、「知人の紹介、口コミ」23.0%、「人材派遣会社」19.2%と続いている。「その他」には、「学校の求人情報」、「インターネット」などの回答があった。

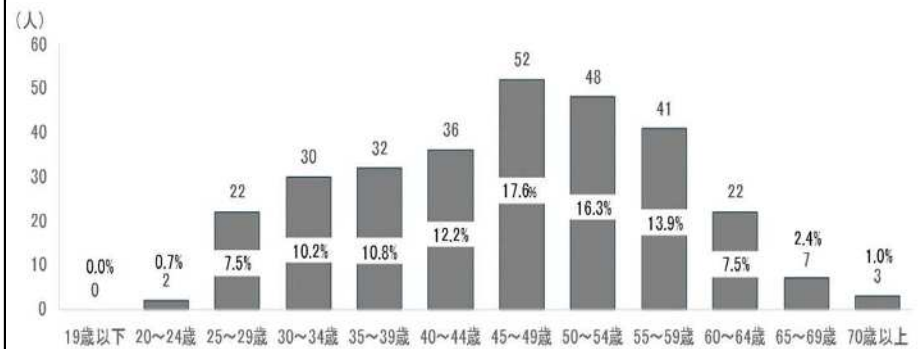
問18 働き続けるために最も重視するもの



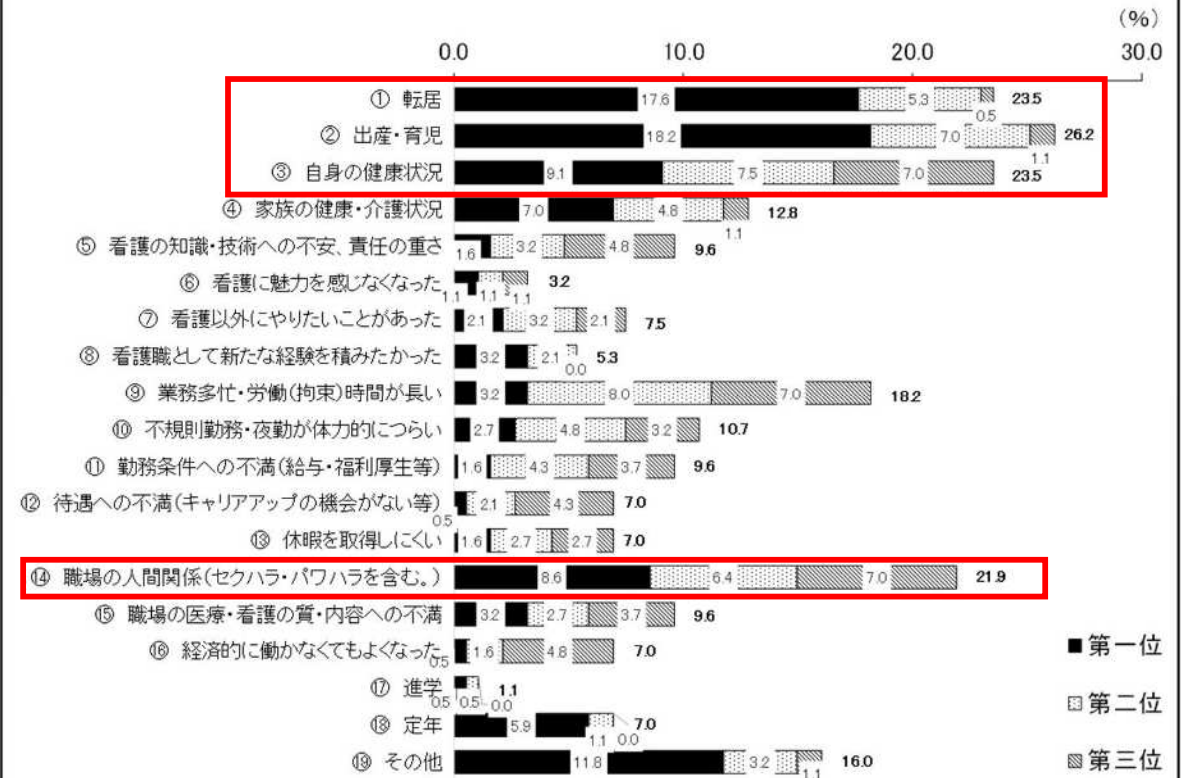
全体でみると、「給与や福利厚生」45.8%が最も多く、次いで、「職場内の人間関係」25.0%、「希望の時間で働ける・勤務時間に自由度がある」11.9%と続く。上位3つは、「看護職員編」と同じ結果であった。

令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（離職者編①）

問2 年齢



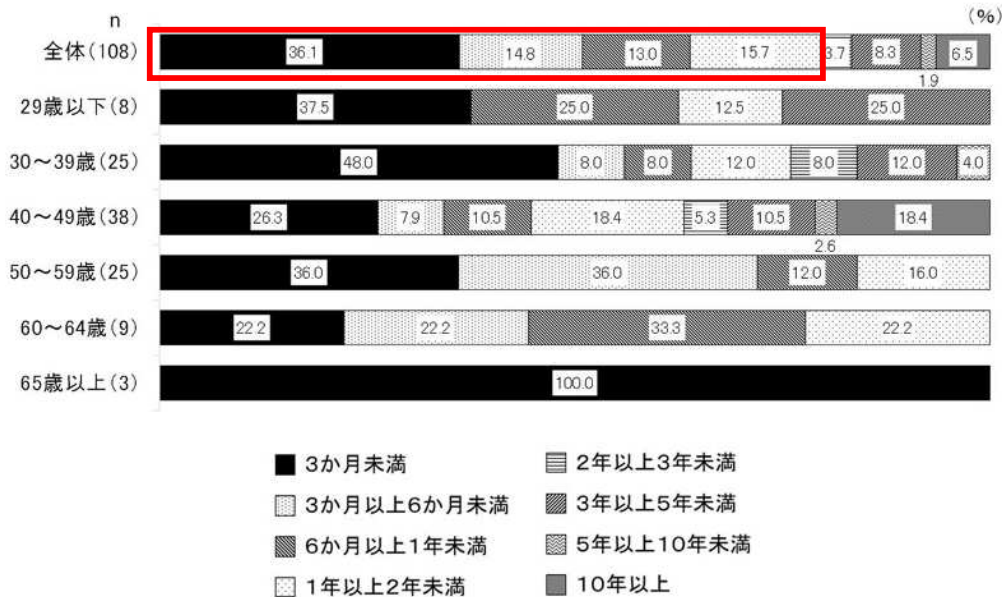
問9 最後まで働いていた職場を退職した理由



「②出産・育児」26.2%が最も多く、次いで、「①転居」「③自身の健康状況」23.5%、「⑭職場の人間関係」21.9%と続く。
「その他」には、「就業先の閉業」、「契約の満了」などの回答があった。

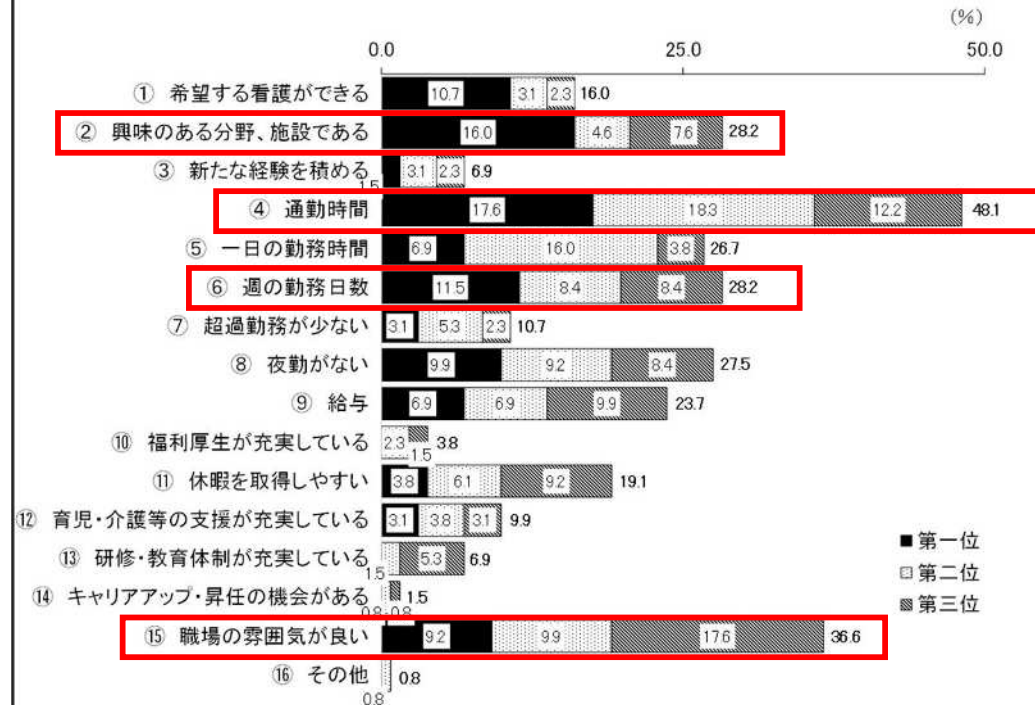
令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（離職者編②）

問6-3 現在の就業先に勤めるまでの離職期間



全体でみると、離職期間「2年以内」と回答した割合が約8割であった。

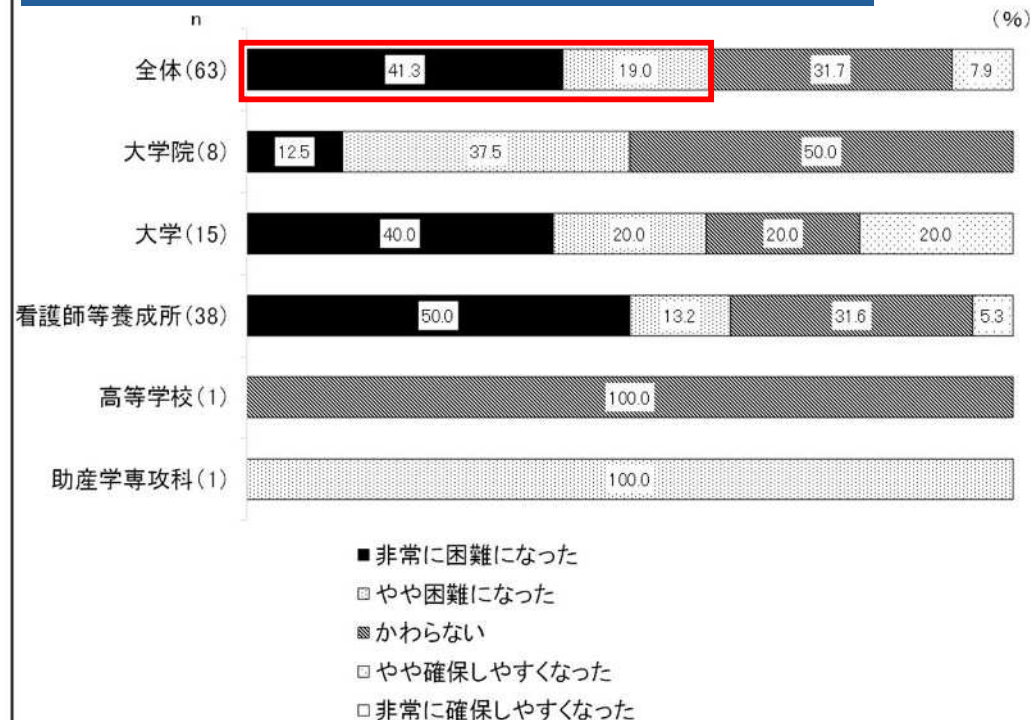
問12-4 再就業先を選ぶ際に重視するもの



「④通勤時間」48.1%が最も多く、次いで、「⑮職場の雰囲気がいい」36.6%、「②興味のある分野・施設である」「⑥週の勤務日数」28.2%と続く。

令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（教育機関・養成施設編）

問11 5年前と比較した看護教員の確保状況



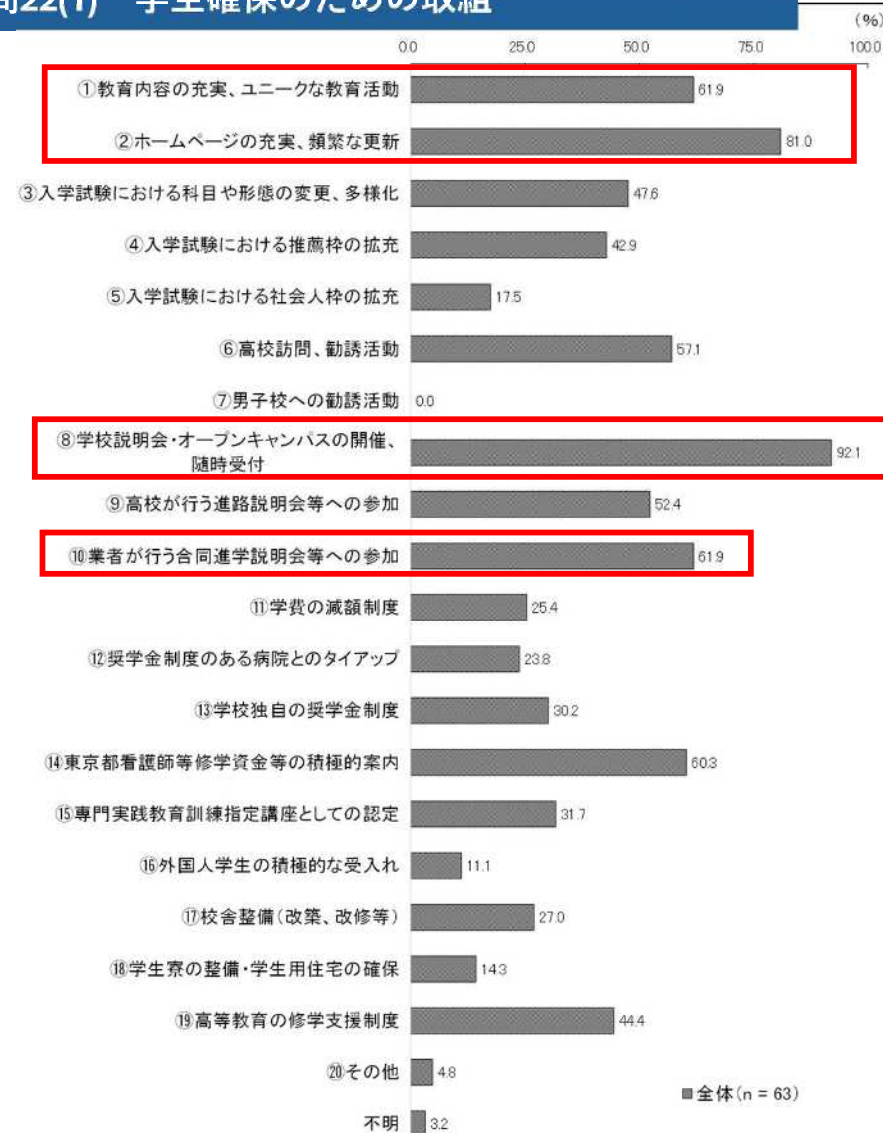
全体でみると、「非常に困難になった・やや困難になった」が約6割を占め、「かわらない」が約3割であり、「やや確保しやすくなった・非常に確保しやすくなった」は1割未満であった。

問19 学生の確保状況（充足率）

令和6年度時点

施設種別	応募者数	受験者数	(上段:人数 下段:割合) (単位:人)		(%)	
			合格者数	入学者数	1学年定員数	定員充足率
全体	15,651	15,262	6,227	3,439	3,514	97.9
	100.0	97.5	39.8	22.0		
大学院	2,083	2,076	636	187	115	162.6
	100.0	99.7	30.5	9.0		
大学	10,558	10,189	3,538	1,558	1,346	115.8
	100.0	96.5	33.5	14.8		
看護師等養成所	2,980	2,967	2,023	1,665	2,013	82.7
	100.0	99.6	67.9	55.9		
高等学校	30	30	30	29	40	72.5
	100.0	100.0	100.0	96.7		
助産学専攻科	0	0	0	0	0	0.0
	0.0	0.0	0.0	0.0		

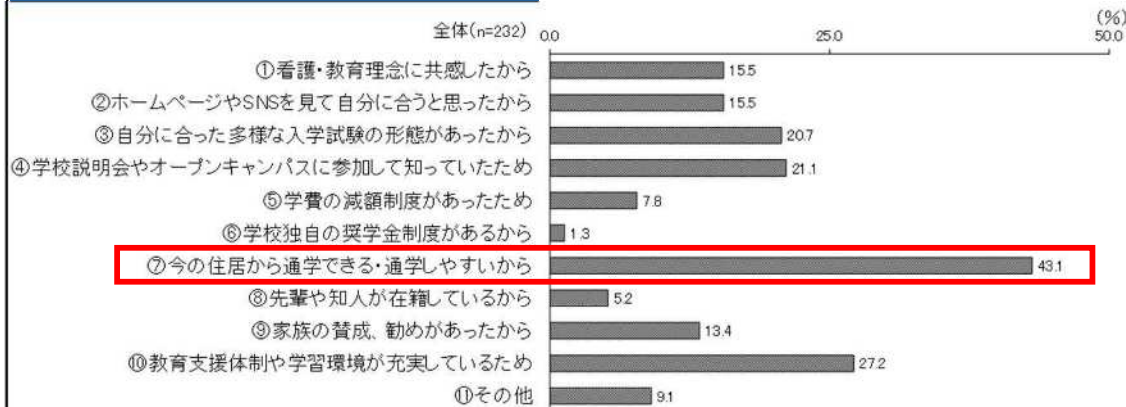
問22(1) 学生確保のための取組



「⑧学校説明会・オープンキャンパスの開催、随時受付」(92.1%)が最も多く、次いで「②ホームページの充実、頻繁な更新」(81.0%)、「①教育内容の充実、ユニークな教育活動」「⑩業者が行う合同進学説明会等への参加」(ともに61.9%)と続く。

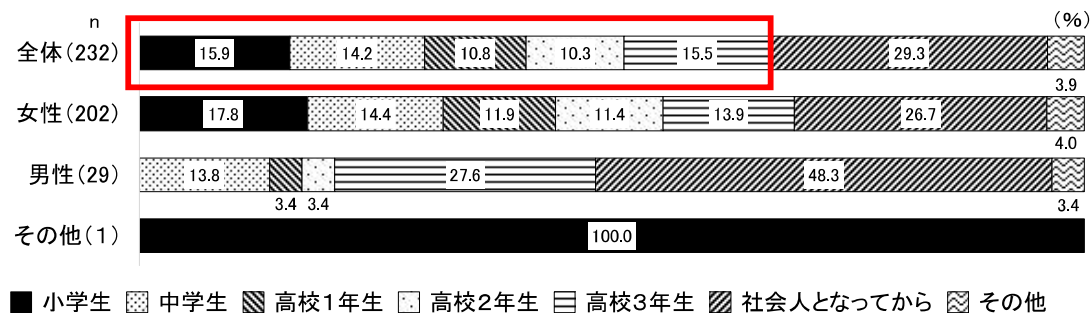
令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護学生編①）

問7 入学を決めた理由



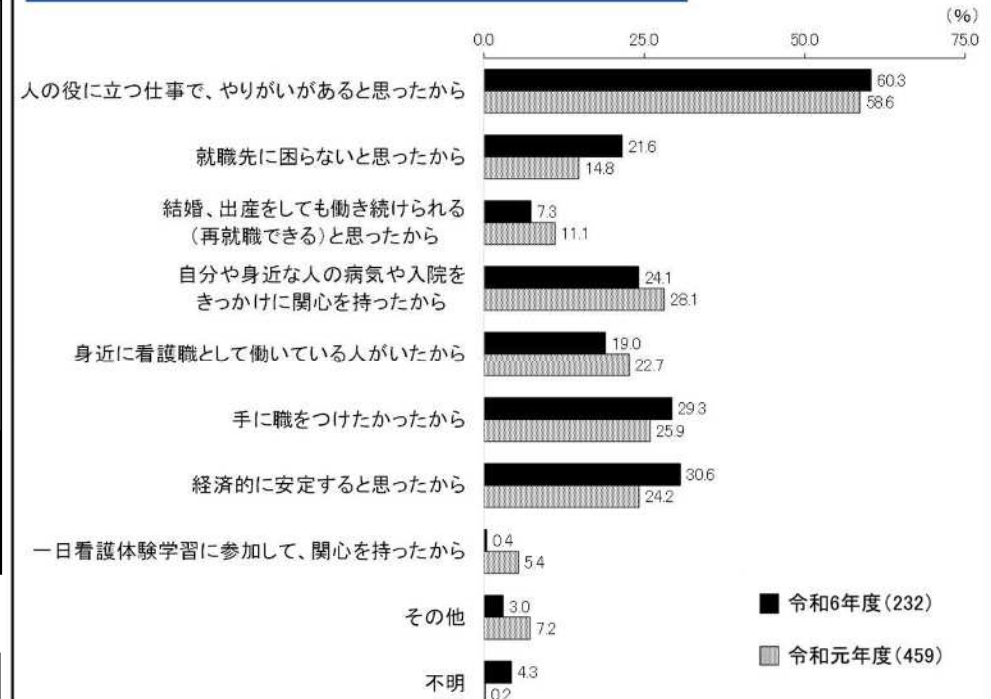
「⑦今の住居から通学できる、通学しやすいから」43.1%が最も多かった。

問8 看護職を目指した時期



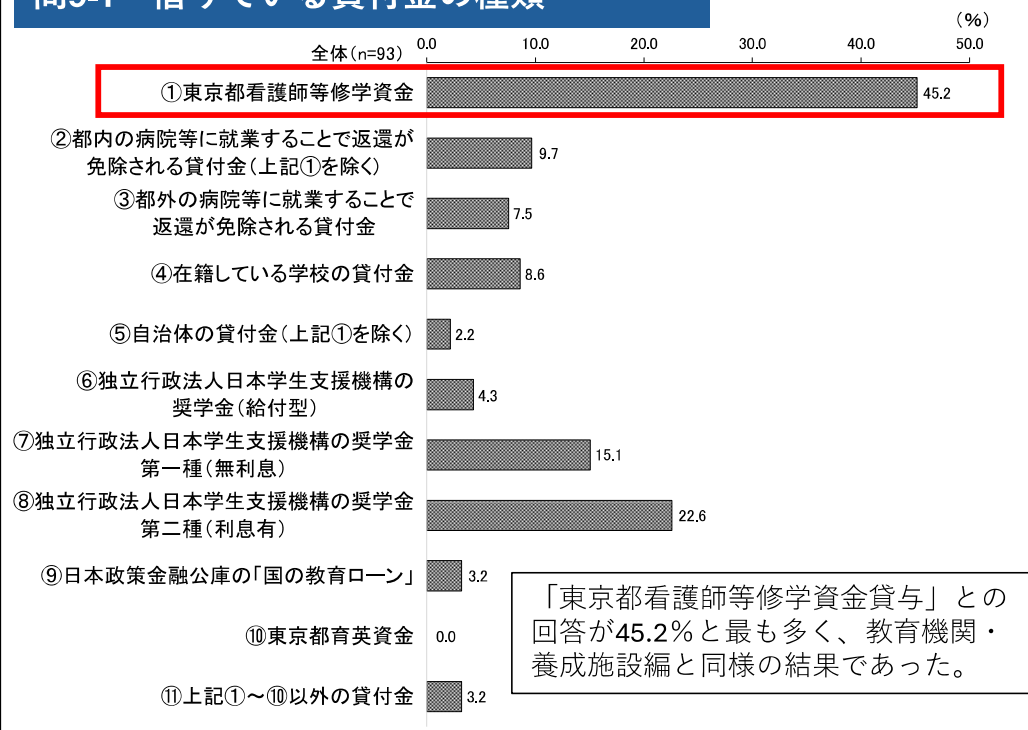
「中学生まで」に約30%、「高校3年生まで」に約65%が看護職を目指したと回答があった。

問8-1 看護職を目指した理由

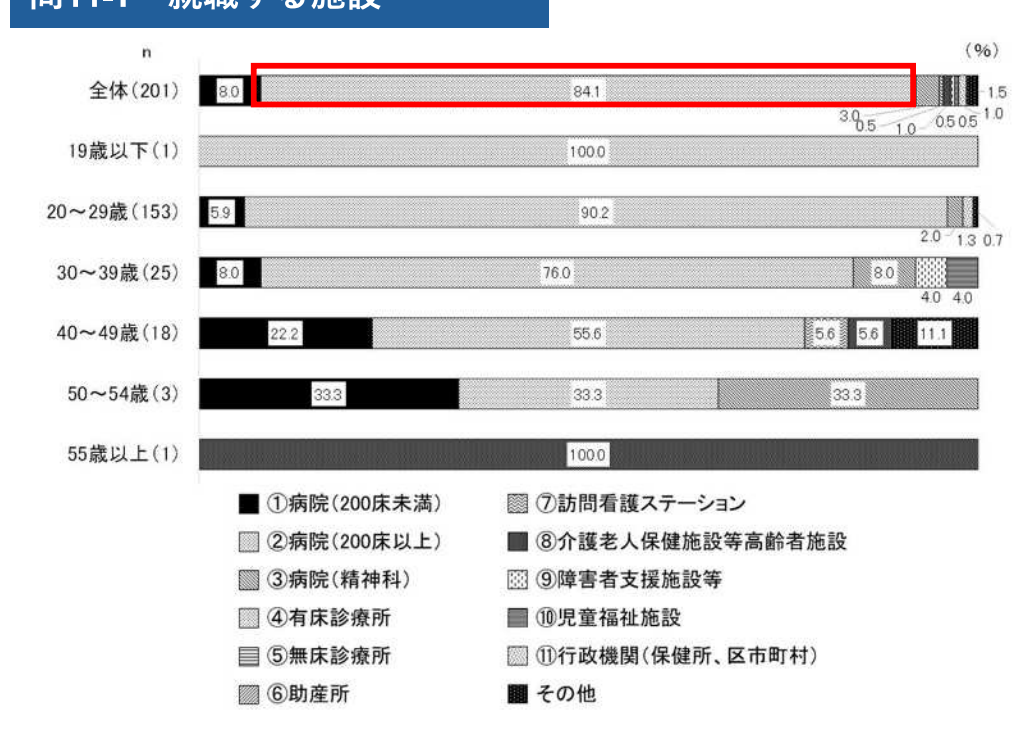


令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護学生編②）

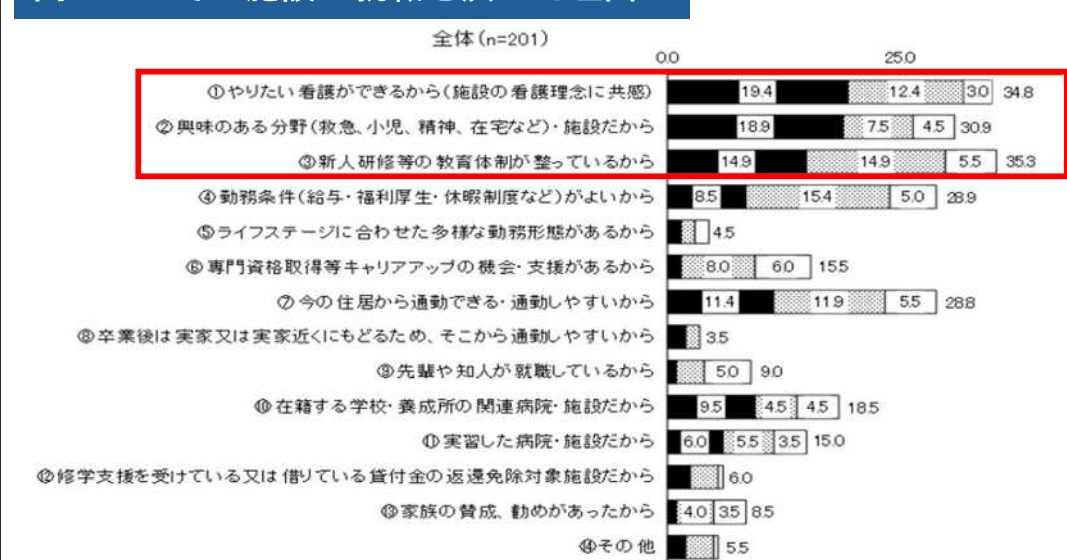
問9-1 借りている貸付金の種類



問11-1 就職する施設



問11-3 その施設に就職を決めた理由



「③新人研修等の教育体制が整っているから」35.3%が最も多く、次いで、「①やりたい看護ができるから(施設の看護理念に共感)」34.8%、「②興味のある分野・施設だから」30.9%と続く。

■第一位

□第二位

□第三位